

自立活動だより

平成30年 1月発行

愛徳分教室（以下、分教室）は、愛徳医療福祉センター内にある紀北支援学校の分教室です。分教室には、小学部と中学部があり、どちらにも肢体不自由普通学級、肢体不自由重複学級があります。今年度は、小学部に5名、中学部に5名の児童生徒が在籍しています。（平成30年1月現在）

1月の自立活動だよりでは、分教室の自立活動の時間における指導について、小学部肢体不自由重複学級の2名の取組を紹介します。



【紹介1】

小学部6年生の女子です。普段は車いすで生活しています。手をつないで身体を軽く支えると歩行できます。見る力は弱い（弱視）ものの、音楽やふれあい遊びが好きでよく笑顔が見られます。興味のあるもの（音の鳴るもの等）にはよく手を出しますが、手にしたものを口で確かめることが多いため、手や体でものにしっかりと関わり、外界への興味関心を広げることを課題の一つにしています。その中からバランスボール、メガボールを使った取組を紹介します。これらのボールは両手でもかかえきれない大きさで、しっかり手を使うことが必要になります。一方、空気の量で柔らかさを調整できるため、様々な手の使い方や関わり方を引き出すことができます。

① 座位での取組（環境の把握・人間関係の調整・コミュニケーション）



車いすに座って両手を出したところにバランスボールを持たせます。ボールを叩いて振動を感じて笑顔になったり、ボールが手から離れて床に落ちる音を追いかけるような視線が見られたりしました。ボールが落ちた時に「ボール落ちたね。もう1回、ほしい？」と声をかけると、応えるように教師の手をタッチします。そこで、もう一度ボールを持たせてもらおうと、笑顔で再びボールに手で関わり始めます。ボールを介して、教師と関わるできるようになってきました。

② 立位での取組（環境の把握・身体の動き）

車いすから離れて自分の体を支えること、また、全身でものに関わる経験を積み重ねることを目的に、①で使ったバランスボールに座ったりうつぶせになったりして、揺れ遊びをしました。この活動ではボールが小さいため、なかなか体をあずけることができませんでした。そこで、児童の肩の高さまであるメガボールを使うことにしました。両手で叩いたときの振動や体を押しつけたときの大きな跳ね返りを楽しんで、繰り返し自分から手を出していました。また、前屈みで関わっていたのが、姿勢を起こしてバランスをとり、立位姿勢を保持してボールに手で関わり、さらには体の向きを変えてボールにもたれ、自分でボールを揺らして揺れを楽しむようにもなりました。



メガボールで以上のような活動で楽しめるようになると、初めはなかなか体をあずけられなかったバランスボールにも体をあずけて、自分で揺れ遊びを楽しむことができるようになってきました。



このような活動を積み重ねることで、自分からボールに手や体で関わるが増え、やりとり遊びが広がっています。また、立位のバランスがよくなって、つかまり立ちで立ち止まることができるようになってきました。

【紹介2】

小学部2年生の女子です。歩行は未獲得ですが、今年度になってしっかり首がすわり、体幹を自分で支えられるようになってきました。自立活動では、獲得した機能を使って自分から外界（人やもの）にはたらきかけることを課題に学習しています。日常的には座位保持装置あるいはベッド上での生活となるため、学校では、できるだけ広いところでねころんだり自分から動きだせるようはたらきかけています。

① うつ伏せになる（身体の動き）

自立活動では、様々な姿勢をとる機会を持っています。特にうつ伏せは、首のすわりをすすめ、体幹を支える、また排痰を促すことを目的に、1学期から積極的に取り組んできました。1学期は胸から脇を支えるものを入れていましたが、首のすわりがしっかりしてきたため、肘で支える姿勢に挑戦してきました。最近目は目の前のおもちゃを見つけて手を出すようになってきました。そして、おもちゃを追いかけて、寝返りも見せてくれるようになりました。



② 手を使う（環境の把握・身体の動き）

ねころぶ、支えすわり、立位台での立位など様々な姿勢で、自分の手でもの



に関わるように誘いかけています。音の鳴るもの、光るものに関心が強いので、手ではたらきかけると変化が起こるような教材を提示しています。最近、自立活動の時間以外でも、自分の前で見つけたものに両手を出して、つかむ・握る・離す・引っ張る・振る等様々な手の使い方をし、持ち替えもよく見られるようになりました。また、以前は苦手だった感触のものにも、一度は手を出して感触を確かめるようになってきました。手を使うことで、楽しめることが広がってきました。

③ 人に関わる（人間関係の形成・コミュニケーション）

自立活動の時間で一番楽しみにしているのが、抱っこでのゆさぶりです。歌にあわせて、抱っこで前後や上下にゆさぶります。歌が終わって揺れが止まり、抱っこしている先生が「もう1回、する？」と聞いて指をさしだすと、その指を握り返します。それを合図に、もう1度ゆさぶります。最近曲が終わって先生が指を出すのを待ち構え、すぐに握り返すようになってきました。

このように、獲得した機能をつかって、学校生活全般で、人やものにはたらきかける経験を積み重ねることを大切にしています。

